

「気象庁 緊急地震速報の技術的な改善」の対応について

平素より緊急地震速報受信機 HomeSeismo（ホームサイズモ）をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。
「気象庁 緊急地震速報の技術的な改善」の対応についてお知らせ致します。

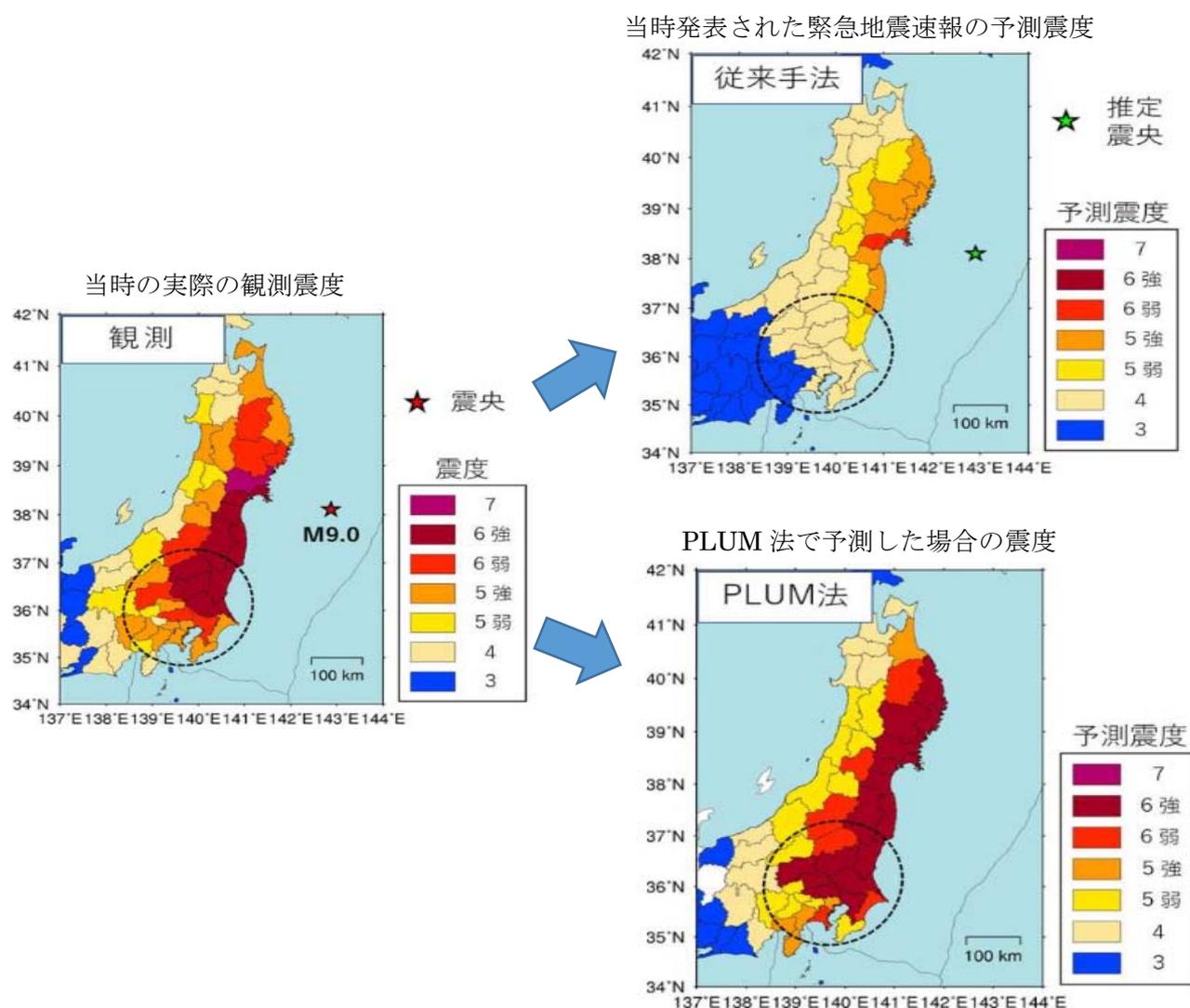
気象庁では緊急地震速報の技術的改善として、2018年3月22日（木）から、緊急地震速報の新たな手法（PLUM法）を導入します。

これにより、現在の緊急地震速報電文の仕様が変更されます。

また、緊急地震速報電文の仕様変更とは別に、今まで配信していない新たな電文の配信も開始されます。こちらは予報業務許可事業者による予報で使用する電文のため、気象庁の制度の準備が整ってから実際の運用が開始されます。

新たな手法（電文の仕様変更及び新規配信電文）では、緊急地震速報の予測精度が向上します。

<東日本大震災の PLUM 法シミュレーション（気象庁資料より）>



<ホームサイズモの対応>

ホームサイズモは、仕様変更される緊急地震速報（警報・予報）、及び新規で配信が開始されるリアルタイム震度電文に対応し、従来法+PLUM法によるハイブリッド対応を行う予定です。

対応時期については、準備が整い次第別途ご案内させていただきます。

用語説明

従来法（IPF法等）	震源・マグニチュードから各地の震度を予想
PLUM法	周辺の観測点で観測されたリアルタイム震度から、当該地点の震度を予想
ハイブリッド対応 （従来法+PLUM法）	従来法及びPLUM法、両者の震度予想を反映して緊急地震速報を発表する

HomeSeismo ベーシックプラン対応

○ホームサイズモ端末 ファームウェア仕様変更料金：無料（遠隔バージョンアップ）

○ベーシックプラン年額料金：税別 36,000 円据え置き

		ハイブリッド による発報
新形式電文（仕様変更） 気象庁：2018年3月22日開始 ホームサイズモ：準備が整い次第開始	緊急地震速報（警報） （従来法+PLUM法）	○
	緊急地震速報（予報） （従来法）	○
リアルタイム震度電文（新規配信） 気象庁制度の準備が整い次第開始	緊急地震速報（予報） （PLUM法）	

HomeSeismo ライトプラン対応

○ホームサイズモ端末 ファームウェア仕様変更料金：無料（遠隔バージョンアップ）

○ライトプラン年額料金：税別 21,600 円据え置き

※ライトプランの新規お申し込み受付は、2015年5月31日をもちまして終了しました。

リアルタイム震度、HomeSeismo アラート、津波・噴火情報などの提供があるベーシックプランへの変更をぜひご検討ください。

		ハイブリッド による発報
新形式電文（仕様変更） 気象庁：2018年3月22日開始 ホームサイズモ：準備が整い次第開始	緊急地震速報（警報） （従来法+PLUM法）	○
	緊急地震速報（予報） （従来法）	× （従来法での発報のみ）
リアルタイム震度電文（新規配信） 気象庁制度の準備が整い次第開始	緊急地震速報（予報） （PLUM法）	

スペシャルプランの対応内容については仕様調整が必要なため、準備が整い次第個別にご案内させていただきます。

「気象庁 緊急地震速報の技術的な改善」詳細

- 新しい予想手法の導入に伴う気象庁からの電文配信の概要
http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/shiryo/setsumeikai170712/170712_3a.pdf
- PLUM 法の概要
http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/shiryo/setsumeikai170712/170712_7.pdf
- 緊急地震速報の技術的改善について
http://www.jma.go.jp/jma/press/1803/08c/EEW_kaizen_201803.html
- 予報業務許可事業者による PLUM 法を用いた予報（ページ下部）
<http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/plum/index.html>

よくあるご質問

Q. 受信機（ホームサイスマ）を買い換える必要があるのか？ 追加費用はかかるのか？

A. 受信機はそのままお使いいただけます。

ホームサイスマ端末のファームウェア仕様変更料金無料、サービス料金についても据え置きとなります。ファームウェアの仕様変更は、遠隔バージョンアップにて対応します。

Q. すべての緊急地震速報サービスが PLUM 法（ハイブリッド）に対応することになるのか？

A. 現在の仕組みと比較して、緊急地震速報電文の仕様変更及び新規電文の配信が開始されるため、予報業務許可事業者・配信事業者（※1）の対応が不可欠です。

よって、事業者ごとに対応が分かれることが想定されます（※2）

ホームサイスマ（ベーシックプラン）は警報及び予報の発報について、従来法+PLUM 法によるハイブリッド対応を行う予定です。

※1 ホームサイスマは、予報業務許可事業者・配信事業者共に株式会社エイツーです。

※2 対応例

		ハイブリッド（従来法+PLUM 法）による発報		
		①全対応 （ホームサイスマ/ ベーシックプラン）	②ハイブリッド対応 した警報での発報に 対応（ホームサイスマ/ モ/ライトプラン）	③電文の仕様変更 に対応（ハイブリッドに よる発報はしない）
新形式電文（仕様変更）	緊急地震速報（警報） （従来法+PLUM 法）	○	○	× （警報発報はしない）
	緊急地震速報（予報） （従来法）	○	×	×
リアルタイム震度電文 （新規配信）	緊急地震速報（予報） （PLUM 法）	（従来法+PLUM 法）	（従来法での発報のみ）	（従来法での発報のみ）